

# 神戸から発信する市民公開講座

## 根治を目指す最新がん治療法 ③

がんの現状と最新の治療法について広く理解を深めてもらおうと、「根治を目指す最新がん治療法」市民公開講座（神戸から発信する「根治を目指す最新がん治療法」実行委員会主催）がこのほど、神戸大学医学部会館シスメックスホールで開かれた。5回シリーズの3回目となる今回は、耳鼻咽喉・頭頸部外科領域と形成外科領域におけるがんについて専門家による講演が行われた。

神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター  
形成外科診療科長

### 石田 泰久氏



日本国内の形成外科の歴史は比較的浅く、1956年に東京大学に形成外科治療班が初めて設置された。神戸大学病院で形成外科治療が開始されたのは21年前だ。またなじみが薄いこともあり、整形外科と混同されることがある。形成外科は皮膚などの体表面上の問題を中心に扱う。皮膚は単に体を覆っているものではなく、体温調節をしたり、神経や血管、筋肉、骨、軟骨などを保護したりする役割を持っており、人体最大の臓器ともいえる。体表面上の問題は、単に見ただけでなく機能的な問題を伴うこともある。皮膚の傷跡や変形、欠損を理由に、人前に出るのを避けるなど、生活の質を下げ

てしまっている人もある。腫瘍治療では、けがや手術によるあざや傷跡、火傷、先天性異常、乳がん手術後の乳房再建などを専門にしている。また、しみやしわ、瘦身などの美容治療にも携わっている。その中でがん治療は、耳鼻科、口腔外科、皮膚科、整形外科、脳外科などの外科と協力して治療を進めることも多い。がん治療は、腫瘍の場所や性質、切除範囲、再発率、悪性度のみでなく、患者の年齢や性別、職業、生活状況、希望などさまざまな条件を考慮して行う。患者によって治療方法は異なり、患者の腫瘍の治療に加えて、患者の治療後の生活を考慮して最適な方法を

### 腫瘍治療における形成外科 ～生活に沿ったオーダーメイド治療を目指す

腫瘍切除により生じた皮膚欠損部に対してよく行う治療として、植皮術がある。これは体のほかの部分から皮膚を採取し皮膚欠損部に移植する方法である。大きな皮膚欠損部に対応することができ、優れた治療方法である。しかし、同一の人間の皮膚であつても部位によって皮膚の色調や質

## 性別、職業考慮し治療選択

### ■ 形成外科って何を診ている科？

- ・外傷・顔面骨折
- ・熱傷
- ・あざ（癬痕、肥厚性癬痕、ケロイド）
- ・腫瘍（良性・悪性〈がんの切除・再建〉）
- ・先天異常
- ・皮膚潰瘍
- ・乳房再建および美容医療



形成外科医は「傷治療」のスペシャリスト。頭からつま先まで、老若男女を治療する。外科的治療で生活の質（QOL）の向上を図る。

感が異なるため傷跡が目立つてしまう場合がある。その他によく行う治療方法では皮弁作成術がある。これは皮膚欠損部の近傍の皮膚に切開を加えて皮膚を弁状に起こして皮膚欠損部を覆う手術だ。皮膚欠損部近傍の皮膚を使うため皮膚の色調、質感が皮膚欠損部のもので近く、また肉、骨などを動脈脈を付けた

状態を採取して顕微鏡下に血管を吻合して移植し、立体的な再建を行う遊離組織移植術を行うこともある。顕微鏡下に細い血管を吻合するために長時間手術となるが、組織が欠損した部位を立体的に再建することができる。代表的な再建方法はこれらを使った方法であるが、皮膚拡張器を使った方法や複合組織移植術など他にもさまざまな再建方法もあり、これらの中からそれぞれの患者にとって最善の方法を検討し治療を進める。がんに対する治療を継続しながらも、患者の生活の質を落とさないようにするのが最良の策を考えるのが形成外科の特徴ともいえる。神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センターでは、2017年6月に形成外科を開設し診療を開始した。センターと神戸大学の形成外科で、綿密に連携しながら診療を行っている。長年の悩みが治療で解決することもあるため、治療の対象か、と思われた場合受診していただきたい。